

平成26年度 事業計画

当協会は平成26年度、公益財団法人へ移行して3年目となる。また、博物館施設の経営形態見直しの中、1年間に限り、大阪市立科学館の指定管理者として指名されることとなった。

25年度の科学館は、プラネタリウム事業の充実、色に関する企画展・サイエンスショー・講演会実施、2日連続のオーロラスペシャルコンサート等もご評価いただき、来館者数は好調で、9月には、開館24年目で1,500万人を達成した。

一方、大阪市では、大胆な市政改革や政策の転換を行うとともに、大阪にふさわしい新たな大都市制度の実現に向けた取組みを進めている。

このような状況の中、当協会は、平成23年6月に策定した経営計画（平成23～27年度）に基づき、日々の職員等の「基礎活動」の重要性を胸に強く刻み、資料の収集・保管、および調査研究を背景に、基盤事業としての展示場の公開・プラネタリウムの投影、教育・普及活動、アウトリーチ活動等を展開し、協会目的である科学並びに科学技術の普及振興を図ることとする。

このため、学芸活動の質をさらに高めることはもとより、お客さまサービスと運営効率を一層向上させるとともに、お客さまにとって魅力的な科学館でのプログラムやイベントを企画し、科学館外でもお客さまと接触する機会を増やすことにより、科学館来館者の増加と、将来のわが国の科学を担う次世代層の育成の一翼を担うことを目指す。

また、当協会が管理運営する大阪市立科学館が、将来約10年にわたり寄与すべき方向と役割について、有識者会議において検討を進めてきたが、平成25年度に「科学を楽しむ文化の振興」を使命とする提言を受け、今後は、この使命の実現に向け取り組むこととする。

なお、当協会が平成26年度、開館25周年を記念し、重点的に取り組む項目は以下の通りである。

○ 3企画展の実施

2014年の世界結晶年を記念し、児童自らが作成した結晶や民間企業からの人工ダイヤモンドを展示する等、市民参画による「結晶のいろいろ」展を実施するとともに、平成26年12月に「小惑星探査機はやぶさ2」の打ち上げが予定されていることから、平成22年度に地球に帰還した「はやぶさ」が採取した「いとかわ微粒子」（予定）や関連資料を展示する等「はやぶさ2」展を実施する。

また、大阪歴史博物館との共催で、科学館所蔵の貴重書を中心に「土星のスケッチ」等当時の実物資料を通じて紹介する「江戸の天文学」展をあわせ、平成26年度は、3企画展を実施する。

○ プラネタリウム事業の充実

国内外の投影方法を広く調査するとともにテレビ番組制作者などとの共同制作を通じて、学芸員の潜在力を高め、より一層、来館者に魅力のある事業の展開を目指す。

一般向け番組は、平成22年12月に開始したプラネタリウムの2番組化が好評であるため継続実施する。そのうち、オート投影部分のソフトについては、原則、学芸員による独自制作とするとともに、新作品を増作する。制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。

また、投影回数を1日7回から8回または9回に追加する投影日を、25年度は大幅に増やしたが、好評であるため26年度も継続実施するとともに、「はやぶさ2」展の開催中は、「はやぶさ2、小惑星へ！」や全天周映像作品「HAYABUSA－BACK TO THE EARTH－」を上映する等プラネタリウム事業の充実を図る。

○ 開館25周年記念誌の発行及び「あべの科学博」の実施

科学館の開館25周年を記念して、開館から今日に至るまでの貴重な資料や写真等を掲載した「記念誌」を発行する。

アウトリーチ活動の一つとして、平成22年度及び23年度に近鉄百貨店阿倍野店で実施し、好評であった移動科学館「あべの科学博」を、昨年度復活実施したが、26年度は、あべのハルカスのグラウンドオープンを受け、規模を拡大し実施する。

※参考資料

① 平成26年度 来館者目標 700,000人

(内訳)

- ・展示場 355,000人
- ・プラネタリウム 345,000人

② 平成26年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

期 間	プラネタリウムA	プラネタリウムB	サイエンスショー
26.3.7～6.1	南十字星にあいこいこう	～26.4.6 オーロラ	ひみつの光で大実験
26.6.6～8.31	天の川って、なんだろう	26.4.8～8.31 月へいこう！ ～おためし月面生活～	空気パワー
26.9.2.～11.30	はやぶさ2、小惑星へ！	26.9.2.～11.30 宇宙人をさがす冴えたやり方	水の科学
26.12.5～27.3.1	ビックバン ～宇宙ヒストリア～	26.12.5～27.3.31 オーロラ	バランス大実験
27.3.5～3.31	ボイジャー太陽系脱出		飛ばしてみよう！

※土・日曜日、祝日、8/9～8/17の11:10は「ファミリータイム」を投影、
12:00は「HAYABUSA－BACK TO THE EARTH－」を上映

1. 大阪市立科学館の管理運營業務受託事業(収入:221,908千円、支出:221,908千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。

(2) 展示場の公開・管理

1) 展示場の公開を行う

(4階:宇宙とその発見、3階:身近に化学、2階:おやこで科学、1階:電気とエネルギー)

2) 展示場が正常に機能するように、その保守管理を行う

特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。

3) 展示品の評価、ならびに資料収集等による展示品の改良を随時行う。

4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。

5) ボランティアが展示案内やエキストラ実験ショーを実施する他、「サイエンスガイドの日」や「科学デモンストレーター祭」の日に一斉に参加する等、市民参画を促進する。

6) 3企画展を実施する。

「結晶のいろいろ」展、「はやぶさ2」展及び「江戸の天文学」展の3企画展を実施する。

(3) 教育・普及事業

1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」、「こどものためのジオカーニバル」を日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。

2) 学校教育への支援のため、教職員向けの各種研修を行う。

3) 大阪市博物館協会と連携しての各種活動を行う。

大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。

SONニュースへの記事提供や、共同研究、博物館連続講座やシンポジウムへ参画する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

1) 出版事業のほか、ホームページ、電子メールマガジンを活用する。

2) 科学館の案内看板を整備し、事業案内チラシの発行を行う。

3) 学校団体に向けた説明会を実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

2. 自主事業(収入:152,880千円、支出:153,170千円)

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:140,760千円、支出:107,641千円)

1) 一般投影は、観覧者層の興味や時宜に応じて実施する。

2) 幼児とその保護者を対象にした「ファミリータイム」を実施する。

3) 学習投影を引き続き実施する。昨年度同様、1、2月期は1日2回の投影を行う。

- 4) スペシャルナイトを引き続き実施して様々な興味関心の要請に応える、また実験的な投影を行う。
- 5) 番組で使用する映像ソフトは、原則、独自制作とする。
制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。
- 6) これら多彩なプログラムの広報については、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページなども活用しながら推進し、市民等の利用を促進する。

(2) 全天周映像普及事業(収入:300千円、 支出:0千円)

オリジナル制作の「オーロラ」等、当協会で作成した映像ソフトを配給する。

(3) 普及啓発事業(収入:11,820千円、 支出:41,165千円)

1)独自事業

- ①当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ②ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。
- ③夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを引き続き実施する。
- ⑤「あべの科学博」等の大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを引き続き実施する。
- ⑥アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを育成するための研修講座を実施する。
- ⑦来館者アンケートを実施する。
- ⑧学校との連携をさぐり、利用促進するために学校への訪問を行う。

2)連携事業

他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。

科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。

日本IBM社によるジュニア科学クラブの科学教室、大阪管区気象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。

「光のルネサンス」など大阪市の事業と連携してプラネタリウムの投影などを行う。

(4) 中之島科学研究所事業(収入:0千円、 支出:4,364千円)

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。

展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。

理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。

その他の研究会等を積極的に開催し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:29,660千円、 支出:29,439千円)

<事業内容>

(1) 売店(収入:29,660千円、 支出:29,439千円)

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する。